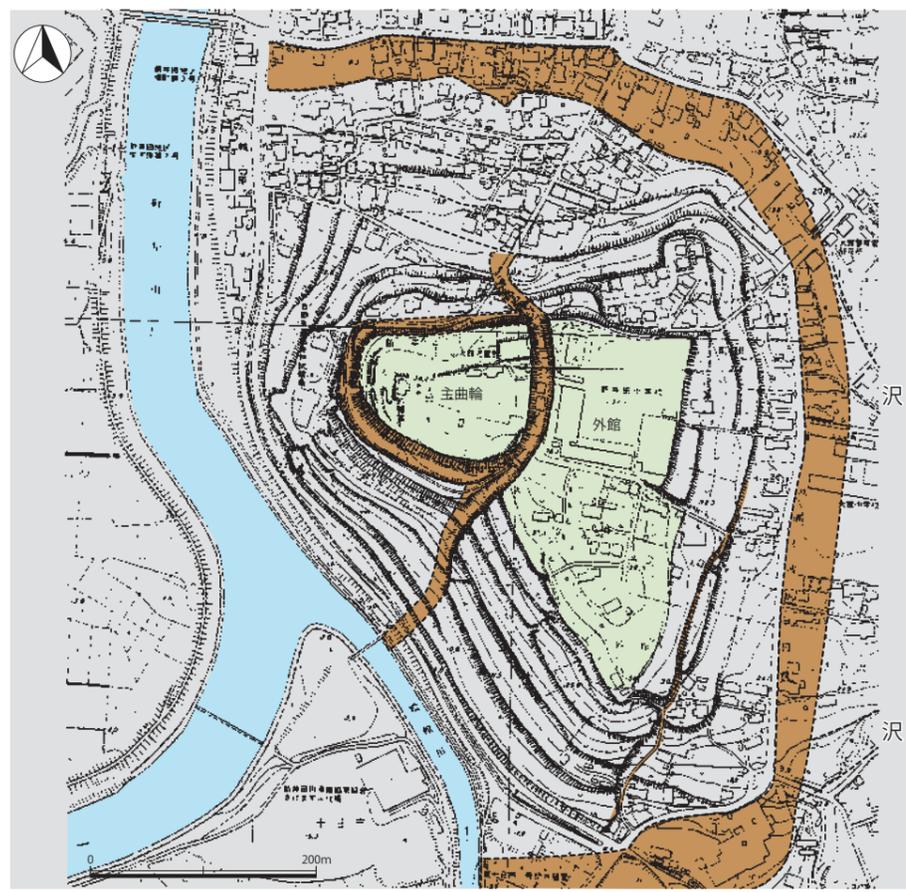


館平遺跡30地点 新田城跡 現地説明会資料

令和元年7月20日(土) 午前10時～
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館



上図：
新田城曲輪配置想定図
(「新編八戸市史考古資料編」より抜粋)

この図で言うと、今回発掘調査を実施しているのは主曲輪(本丸)部分。外館(二の丸)の北半分は、現在新井田小学校の敷地になっている。

下図：
新田氏の系図
(「新編八戸市史通史編I」などを参考に作成)

青字が新田氏、黒字が根城南部(八戸)氏。数字が新田氏の代数を表す。赤字は、新田氏から根城南部(八戸)氏へ養子に入った当主。1627年の遠野への領地替えの時の当主は、根城南部(八戸)氏が直義、新田氏は義実であった。

はじめに

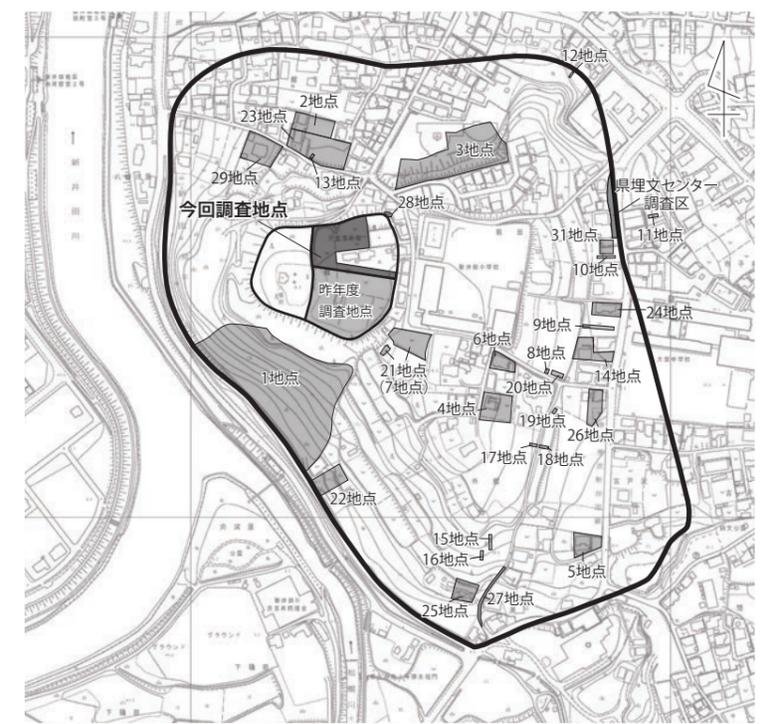
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館では、昨年から3年間の計画で新田城跡の発掘調査を行っています。今年は昨年度調査した場所の北側、約5,000㎡を対象に調査しました。発掘調査からわかったお城のようすをご紹介します。

これまでにならわかってきた新田城

新田城跡(遺跡名:館平遺跡)は、新井田川・松館川の合流点を見下ろす標高約37mの丘の頂上にあります。東西約200m、南北約150m程度の規模のお城で、南北朝時代から江戸時代のはじめまで八戸を治めた根城南部(八戸)氏の一族である新田氏のお城だったと伝えられています。

お城の始まりについては、それを書いた記録が残っていないため、確かなことはわかりません。終わりについては、1592年に書かれた書類の「新井田城破却」という記述からこの時に城の機能を失い、その後、根城南部氏が遠野へ移る際に新田氏も同行した1627年に、城としての役目を完全に終えたと考えられています。

お城がなくなった後、1766年には八戸藩5代藩主南部信興(1725～1773年)が隠居後の病氣治療のために別邸を現在の八幡宮が建っているあたりに建て、これを新井田御殿や揚巻間と呼んだと当時の日記に残っています。



これまでの館平遺跡(新田城跡)の調査歴
遺跡内の31か所で発掘調査を実施

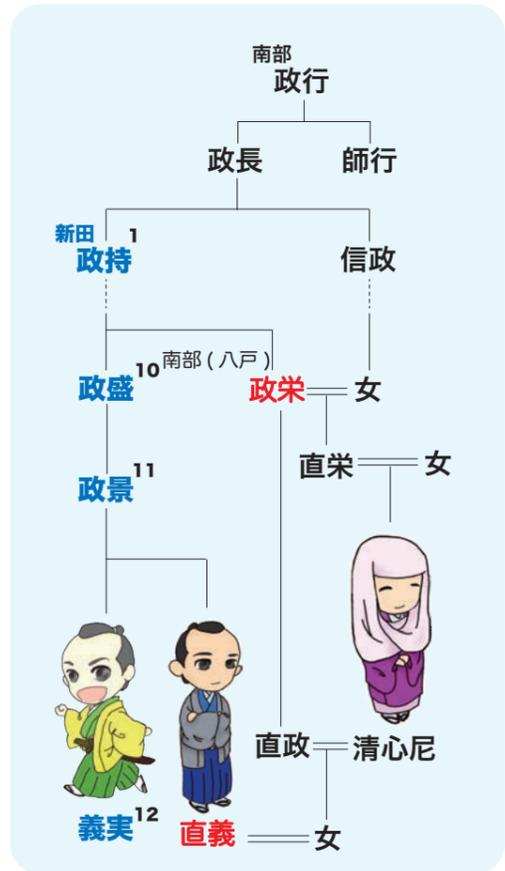
おわりに

新田城跡は今まで主曲輪(本丸)の発掘調査は行われたことがほとんどなく、お城の様子はよくわかっていませんでした。昨年度の調査では鍛冶遺構や倉庫群が見つかり、今回の調査では、建物の配置状況と大規模な盛土整地を確認できました。

今年度の調査から得られた情報を詳細に検討し、来年度以降の調査につなげていきたいと考えています。



ようし、来年もガンバルぞ!



◆ 発掘調査でみつかったもの

今回の調査では、主に中世から近世と考えられる掘立柱建物の柱穴と塀跡、平安時代の竪穴建物跡などの遺構がみつかっています。また、低い所に土を盛って平場を広げるための整地がされていることがわかりました。

今回の調査は、保存を前提に遺跡の内容を確認することを目的としており、遺構がみつかったとしても掘り下げるのは最小限にとどめました。そのため、各遺構の詳細な時期を知るには限界があります。しかし、遺構の形とそのあり方や、少量ながらも、縄文土器や土師器、中世から近世の陶磁器、銭貨などの遺物がみつかっており、それぞれの時期にどのような生活をしていたのか、大まかな様子がわかりつつあります。

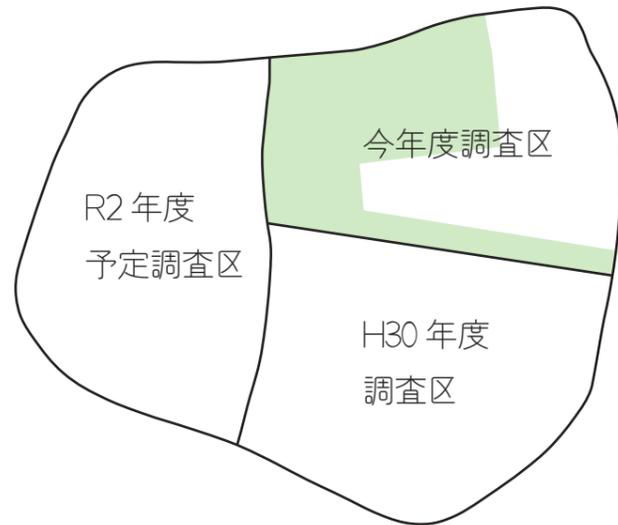
〈 今年度検出した遺構 〉

● 中世～近世

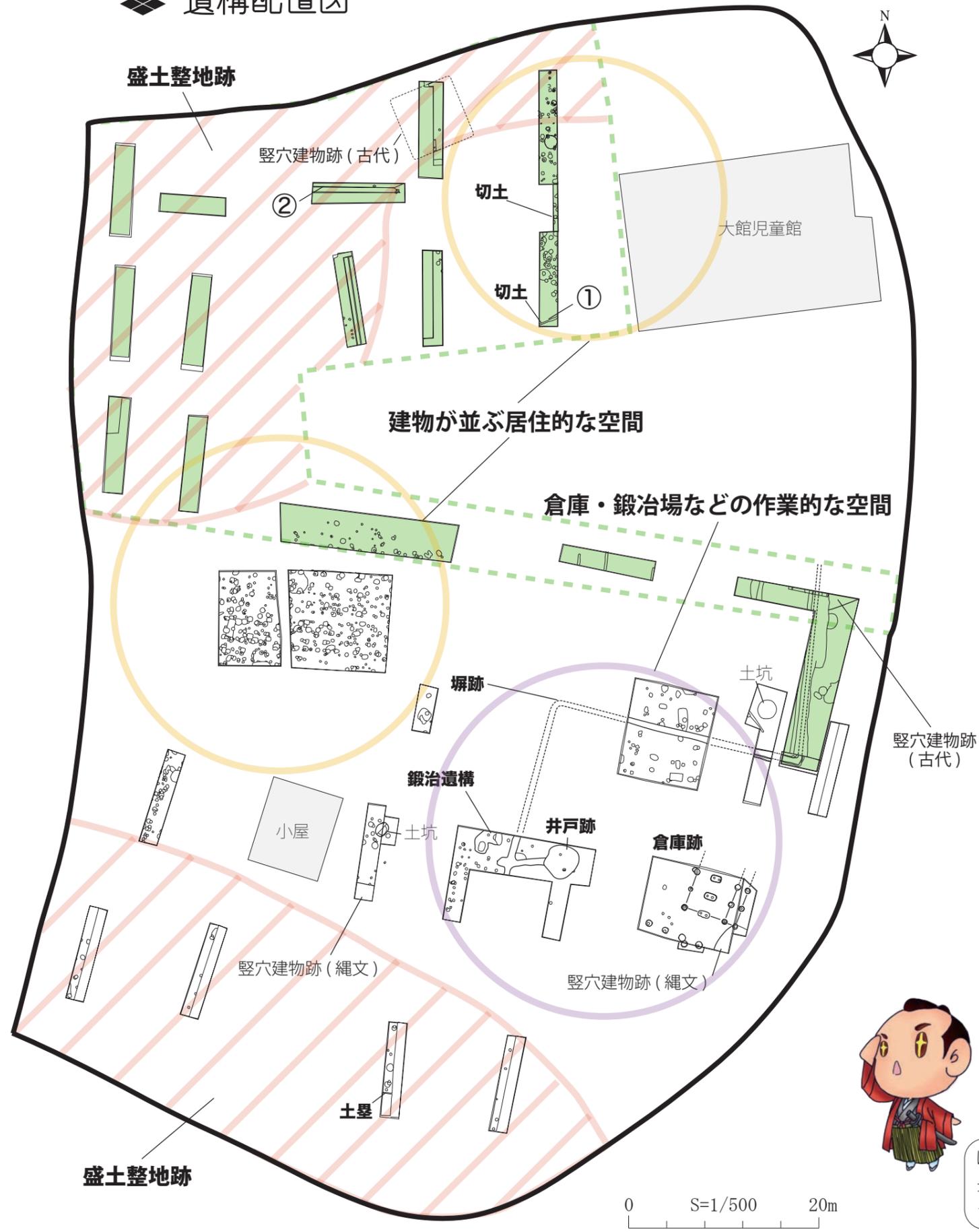
柱 穴 多数
 塀 跡 1条(今年の続き)
 盛土整地跡 一か所

● 古代

竪穴建物跡 2棟



◆ 遺構配置図



①陶器丸皿の出土状況



②盛土整地層



盛られた土の量がハンパない!



ほう、だいぶ城のようすが見えてきたな!?